

しげい病院

倉敷の地で半世紀以上の歴史を持つしげい病院。一九六八年に、いち早く人工透析を開始するなど、岡山県における腎臓病治療のパイオニアとしてその名を知られてきた。現在は透析に加え、回復期のリハビリテーションをもう一つの柱に据え、地域に開かれた医療を展開している。



病院の方針



重井文博理事長

回復期重視で地域に貢献

当院は丁R倉敷駅、美観地区よりそれぞれ徒歩十分という、環境に恵まれた位置にあります。急性期（救命）医療

の中核である倉敷中央病院に隣接、川崎医大病院に車で十五分の距離にあります。

診療科は内科、外科、脳神経外科、リハビリテーション科などで、二百五十九床の入院病床と百床の人工透析センターがあります。

急性期、回復期、維持期の医療の流れの中で、当院は社会復帰の支援として維持透析とリハビリテーションに重点を置いています。この二本を柱とした回復期医療の提供で地域に最も貢献できるものと考え、ここ数年で体制を整えてきました。

当院の役目は、急性期から自宅への橋渡し。大病をされた方が社会復帰できるかどうかが決まる、救急医療に劣らぬ重大な使命と心得、職員一同、日々職務に当たっています。

理事長	重井 文博
院長	重井 文博
住所	〒710-0051 倉敷市幸町2-30
電話番号	(086)422-3655
メールアドレス	shigeihp@shigei.or.jp
アクセス	JR山陽本線「倉敷駅」から徒歩10分。または同駅から両備バスまたは下電バスで南幸町「しげい病院前」で下車



【病院の概要】

診療科目	内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 腎臓内科 人工透析内科 小児科 外科 心臓血管外科 整形外科 脳神経外科 放射線科 リハビリテーション科
専門外来診療科目	
病床数	259床
病院の認定	
看護比率	10対1
救急対応	協力病院当番制病院
主な診療内容	初期診断・初期治療 回復期・維持期・リハビリテーション 専門性の高い医療
地域医療連携体制	連携している病医院数34 他医療機関からの患者紹介率61%
人員配置	常勤医師14人（男性11人、女性3人） 非常勤医師21人（男性20人、女性1人） 看護師189人（うち准看護師12人） PT（理学療法士）18人 OT（作業療法士）13人 ST（言語聴覚士）4人 診療放射線技師5人 臨床検査技師12人 臨床工学技士13人 MSW（医療ソーシャルワーカー）5人
出産の対応	
小児科の対応	
脳卒中の対応	
心筋梗塞関係の対応	
医療機器	MRI、CT
治療実績が多い病名	慢性腎不全、脳卒中、糖尿病、肺炎、大腿骨頸部骨折、心不全など

Mini
Data

ミニデータ

- 対応できる在宅医療 訪問診療 訪問看護 訪問リハビリ 訪問薬剤指導 訪問栄養指導
- 同一法人・グループの介護施設
(在宅型) 通所リハビリ 通所介護 訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所

倉敷中央と役割分担

「継ぎ目ない医療」提供

岡山県西部の急性期医療の拠点・倉敷中央病院は目と鼻の先。回復期の医療を主体とするしげい病院は、倉敷中央と密接に連携し「継ぎ目のない医療」を提供している。

倉敷中央から毎年二百人以上の転院を受け入れている。多いのは脳卒中と大腿骨頸部骨折のリハビリ。しげいの看板の一つである透析の患者もいる。救急や手術などは倉敷中央が担い、その後のリハビリはしげいで——という役割分担だ。

スムーズな引き継ぎには看護師が大きく貢献している。二〇〇七年春から行っているのが患者への事前訪問。転院

の前日に、受け入れ病棟の看護課長が倉敷中央のベッドサイドまであいさつに向く。

「病院を変わるのは患者さんには不安。少しでも気持ちや和らげば」。入院患者の七割が倉敷中央からという回復期リハビリ病棟の高山一美看護課長は話す。

両病院の看護部は月一回、合同ミーティングを開催。ソーシャルワーカーも含め十五人ほどで転院後の経過報告や看護方法の検討などを行い、一層の連携強化に努めている。松江佳子看護部長は「患者さんとも、倉敷中央のスタッフとも、顔の見える関係づくりを心掛けています。引き継ぎ書類では分からない細かなことも、お互い伝えられますから」と話す。

はあもにい倉敷

(倉敷市羽島)

メタボ対策 多彩な講座

運動指導士らアドバイス

健康増進施設「はあもにい倉敷」は、しげい病院のグループ会社が運営。社会保険庁関連の財団から引き継ぐ形で、二〇〇八年秋にリニューアルオープンした。温水プール、ジム、講座室などがあり、運動系、文化系合わせて百十四講座を開講。約三千人が利用している。

施設運営に乗り出した主な狙いは、メタボリック症候群対策として〇八年に始まった特定健診・特定保健指導への対応。「特定健診で高血圧や肥満を指摘されても、正しく運動したり指導を受ける場がなかった。大いに活用してほ



多くの参加者でにぎわう「はあもにい倉敷」の健康講座

しい」と岡崎敏夫社長は話す。ずばりシェイプアップが目的の講座や、マシンのによる有酸素運動で心肺を鍛えるトレーニング、肩こり予防に絞ったものなど内容はさまざま。指導に当たる健康運動指導士が一人一人の希望を聞き、個別にメニューを決める。保健師や管理栄養士もおり生活習慣病予防をアドバイスする。会社員らも利用しやすい夜間のコースも充実し、趣味の講座も多彩。問い合わせは、はあもにい倉敷(086-434-9039)。